

《5月予定》

19日小規模多機能型居宅介護運営推進会議  
20日避難訓練  
27日誕生日会  
29日職員お疲れ様会 & 歓送迎会

《不定期行事》

天気や意欲等で状況判断し、外出先一覧を参考に社会生活に参加します。

《利用状況案内板 (☆募集中 ★満員)》

☆ナイス・ケア

☆ナイス・デイ (定員 10名/日)

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 7 | 6 | 7 | 6 | 7 | 7 |

☆ナイス・ホーム(登録者 18名/定員 21名)

☆愛宕の家(入居者 16名/定員 17名)

☆つしま紹介所 ☆ナイス・キッズ

★打太鼓

～上記を参考にご利用下さい～

在宅介護と看取り/ナイス・ホーム

4月21日、約7年間に渡って関わってきたHさんが亡くなった。

若年性アルツハイマー型認知症で関わった初めての利用者さんだった。事情があって夫と孫と同居。孫の面倒を見ながら、近所の子供たちにも目を配り、とても世話好きな評判の良い方との話を聞いた。

始めて出会った頃、Hさんは自分の足で歩いていた。

物忘れが始まっても気にかかるのか、自分の孫と重ねていたのか、ホームで過ごしていたキッズ達を見つけると嬉しそうに寄り添っていた。若年性アルツハイマーということは若い!! そう、Hさんは健脚。

室内では収まらず、何十分も何時間でも散歩(徘徊)をする。自宅でもホームでも、夏の暑い日でも、どんな日でもお構いなしに汗だくになって歩き続けるHさん。タオルと水分を持ってスタッフが付き添った。当然、家にいるときは夫が日々付き添っていた・・・。

そんなHさんにある日突然変化があった。

通いスタッフが『おはようございまーす!!』と玄関で挨拶をすると、『おい、朝起きたらあいつが歩けんようになってる!!』と夫から聞かされたのだ。昨日まで軽い足取りで大きな段差も難なく通過していたのに!? 歩くという機能が低下したわけではない。骨折もしていない。“歩く”を忘れてしまったのだ。

その日を境にどんどん他のこともできなくなっていた。食事は口まで運ぶ介助があれば食べられたのに・・・、気付くと口いっぱい食べ物溜まってしまうようになっていた。ついに“飲み込む”ことを忘れてしまった。

H21年12月末、明らかに体調不良となり救急で入院。この時期にはほとんどの行為ができなくなっていた。忘れてしまったのだ。家族は戸惑った。当然、私たちも戸惑った。こんな風に忘れてしまうものなのかと・・・。

入院中、家族は胃ろう増設を希望した。Hさんに生きてほしいと願ったからだ。

夫は指先に力の入らない震える手で毎日毎日胃ろうから栄養注入をしていた。自宅ではベッド上で過ごす時間が多くなり、ついには寝たきりとなった。

先月の4月14日、訪問対応中のスタッフから、「嘔吐している。看護師の指示がほしい」と連絡が入った。看護師から主治医へ状況報告し、栄養中止や経過観察等の指示が出た。

今までにも何度か体調不良や急変はあった。その度に、家族と向き合いHさんの最期をどう迎えたいか話し合ってきた。そして、今回も医師を交え最期をどう迎えたいのか話し合いをした。『最期まで自宅で過ごしてほしい。』娘さんが言った。家族にとって、妻であり、母親であり、おばあちゃんである大事な大事なHさん。Hさんに、そして家族に、「悔いが残るような最期を迎えさせたくない。」と私は思っていた。『苦痛の少ない状況であれば、自然な最期を自宅で迎えるということが良いですか?』と、家族全員に確認。主治医も家族の想いを尊重した。

体調不良後も対処療法で安静を保ちながら、家族の声が聞こえる自宅で過ごした。4日後、大好きな家族が自宅にいる時間帯に息を引き取った。全員揃っている様子を知っているかのように・・・。

葬儀の後、『母が一生懸命育ててくれた娘(孫)が、最期のお化粧をしたんです。』と聞いた。お化粧してもらいながら「こんなに大きくなって・・・」と想像していたら・・・、と私は想像する。

“自宅での看取り”は本人の状態にも因るが、家族の精神面を考えても容易なことではない。

それでも・・・、毎日のように関わる中で状態や状況を見極め、主治医や多職種との連携を密にし、後悔しない最期の迎え方を真摯に考え受け止められたとき、小規模多機能ならではの臨機応変に寄り添いながら支える介護サービスを提供させてもらいたいと思う。Hさんのご冥福をお祈りします。(Y・O)



食べる! ②/愛宕の家

前回に引き続き食についてもう少し。先日あるスタッフが言った。朝食時いつも通りに「I さ～んご飯ですよ～」と声をかけたら、「俺はここに来てからご飯なんか1回も食べとりやせん!」と怒った。おっしゃるとおりだ。Iさんは飲み込みが良くなく、誤嚥をして入院したりしているので、現在は完全ミキサー食。やるせなくなったとスタッフは言う。

Sさんも嚥下機能の低下で胃ろうにしてみえる方。ご飯だよと声をかけると、「ここじゃなくて(お腹を指して)、ここから食べたい(口を指す)。」これまたやるせない。

お二人にとっては、ミキサー食も経管栄養も食事ではないという事。でも、命をつなぐという意味では、食事であるという事は間違いない。ただ、いかに楽しく栄養を摂って頂くと言うことが経験不足の私にはなんとも難しい。食べられる幸せに感謝。(K・T)

貸切部屋/ナイス・デイ

ナイス・デイの浴室は個浴。いわゆる一般家庭の浴室です。

1対1の関わりが出来るプライベート空間(?)いわゆる貸切部屋のようなもの。正直なところ、1対1で機械に頼らない入浴の援助は介護者にとってかなりの疲労を伴う。ある程度歳を重ねている私には堪える・・・。

しかし、それより何より1対1だからこそ聞こえてくる利用者さんの本音が届く場所でもあるのだと改めて確信したのだ♪♪

どこぞの大学教授が言う。「インターネットやスマホが飛び交う時代の中、井戸端会議のような時間が大切だ!!」



これぞ井戸端会議♪  
という1枚の写真(笑)

そうだ! ナイス・デイの浴室は2人きり。“ワイワイガヤガヤ”の井戸端会議とはいかないけれど、担当する介護職員は利用者さんとの時間を独り占めだ♪♪この貴重な時間をただの清潔介助で終わらせるか否かは介護者次第!?

お風呂場という貸切部屋で「〇〇でもない。△△でもない。」「実は☆☆だったのよお。」とこっそり?本音で話し合う楽しい時間や関係を作りたい。(M・O)

色々な方法/キッズ



それでも不意に思う。「今の世の中を生き抜く力をつけるには、皆同じではなくて、相手の個性に合わせて対応する能力も必要だ。」今、それぞれが出された課題を解説し前向きに作業に励むのはとっても大切な事なのだ。(R・W)

気持ちと役割/ナイス・ケア

私事になるが、85歳の母が急に入院することになった。87歳の父と二人での生活。今まで、家事全般は母に任せっきり。しかし・・・、途方にくれると思いきや、「87歳にして初めて味噌汁を作った」と意気揚々。毎日忙しく動いている。

利用者さんの中にも90歳を過ぎてから、配偶者の介護や慣れない家事を始める方もある。体には堪えるだろう。大半の方は、“配偶者のためにも介護や家事など自分で出来ることは自分でやりたい”という気持ちがある方は多い。

それでも・・・、私達ヘルパーが訪問中に、一緒に家事を行う時等の会話で「やる事があってゆっくりしてられんわ。」「もう疲れた」という声を聞くと、つい・・・『もっと手伝ってあげられたら・・・。』と思ってしまう。

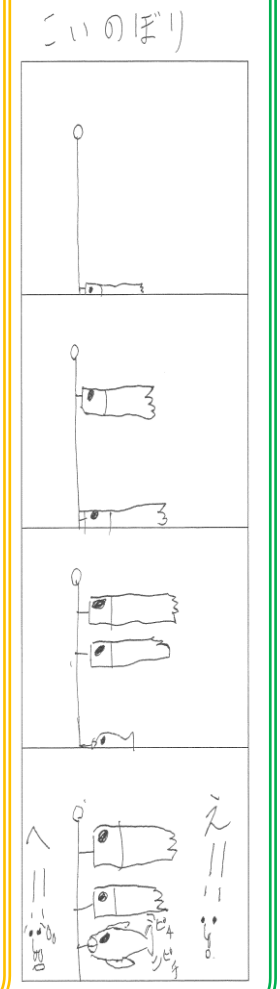
しかし、現実には甘くない。税金でまかなわれている介護保険制度には細かな制約がある。当たり前ではあるが、自費負担して利用し“何でも気軽に依頼ができるお手伝いさん(いわゆる家政婦)”とは違うのだ。

ケアマネが作成する居宅計画に記載されていない、自立支援のためでない行為等は提供できない。

4月の法改正以降、書類作成等も厳しさが増している。同居人がいる場合、その同居人がほぼ不在の方であったとしても生活援助(掃除)は提供しない。埃や臭いは生活に支障がないからだ。

私達は、利用者さんが自立した生活を送れるよう、やる気をおこして頂けるような“援助”の方法を工夫し、実践しなければいけない。(H・A)

小学1～中学2年生が4コマ漫画を描き、その中で選りすぐりの一枚♪



《編集後記》 4月30日全体会議が行われた。各事業所の責任者が現状報告・反省・今後の方針・困りごとなどを報告する。各事業所の責任者は、連携の甘さや介護技術の改善が必要と感じている等の見解が主の内容。代表は「個々のスキルアップの必要性及び自ら気付き向上しようという精神の不足。連携は一言が足りない。相手の懐に飛び込め。責任を持って発言することが大切。」と一括した。日常業務を振り返り、反省する点は多々。全体会議を各事業所へ持ち帰る。風通し良く努力を惜しまない事業所のひとりでありたい。(Y・O)

